

事例5 漂流中、相手船が自船を避けると思い注意喚起や避航動作が遅れた場合

相手船が避けると思い込んで漂流を続け、プレジャーボートと衝突

概要：A船は船長Aが1人で乗り組み、釣り客3人を乗せて漂流中、
B船は船長Bが1人で乗り組み、潮上りのために航行中、両船が衝突した。
A船：船首部オーニングの倒壊等、釣り客2人が負傷
B船：右舷船首部外板に破口等、死傷者なし

A船 遊漁船
4.96トン 漂流中

B船 プレジャーボート
5トン未満 航行中

船首をほぼ北西に向けて漂流して釣りを
行っていた

漂流して釣りを行っていた

船長Aは、左舷船首方400~500mに接
近するB船を認めた

船長Bは、潮上りのために発進する際、操
舵室後方から窓ガラス越しに前方を確認
し、他船を視認しなかったため、前路に他
船はいないものと思って航行した

船長Aは、潮上りしているB船がそのう
ち避航すると思い、漂流を続けた

船首が浮上して船首方に死角を生じて
いたが、船長Bは、他船はいないと思っ
ていて、船首死角を補う見張りを行って
いなかった

A船には汽笛が装備されてい
ましたが、船長Aは、B船が
避航すると思っていたので
警告信号を行いませんでした



B船が至近に接近してきたが、どうするこ
ともできなかった

天気：曇り
風向：北北西 風力：1
視界良好
海上：平穏

〔7月19日
17時00分ごろ〕

A船の左舷船首部と
B船の船首部とが
衝突

船長Bは、音と衝撃で、
B船との衝突に気付いた

接近してくる航行船があなたの船に気付いているとは限りません
漂流船は、自らも相手船を避ける立場であることを忘れずに！



再発防止に向けて（事故防止策）

- ・漂流中に接近する船舶に対しては注意喚起の汽笛を吹鳴し、接近する状況の監視を続け、接近が続く場合には速やかに避航すること
- ・船首が浮上して死角を生じた状態で航行する場合、他船を見落とすことがないように、見張りを適切に行うこと

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。（平成25(2013)年8月30日公表）
http://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2013/MA2013-8-43_2012hs0134.pdf